

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000252		
法人名	有限会社 ももえん		
事業所名	グループホーム ももえん		
所在地	佐賀県佐賀市川副町小々森1260番地1		
自己評価作成日	平成30年3月7日	評価結果市町村受理日	平成30年7月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成30年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム南側には田畑が広がりそこから見える景色を通し季節を感じる事が出来る。小規模多機能ホームと併設しており、一緒にレクリエーションをしたり声を掛け合ったりと交流も有る。「笑顔でその人らしく生き生きと」「もってくる力をフル活用」「自由に自ら生きていく」を理念とし、利用者様一人一人に応じた丁寧な介護が出来るように職員は常に取り組み努力している。利用者様が重度化し続けるなかで、穏やかに過ごしてもらえるよう取り組み、主治医・歯科医・薬剤師・訪問看護師・訪問マッサージ等他職種との連携も大切にしながら支援している。又御家族様との関わりもしっかり出来るように努めており、毎月個別でのお便りを出したり、家族会や運営推進会議で意見交換を行ない信頼関係作りにも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田畑が広がる静かな環境の中、小規模多機能ホームが併設され、常時交流がなされている。入居者は年々重度化しているが、医師、訪問看護、訪問マッサージ等様々な医療職種との連携をとり、状況に合わせた支援が出来ることから安心して過ごすことができる。出来るだけ口から食事をすることに力を入れており、入居者の好みや計上に合わせた食事提供がなされている。家族との信頼関係も築かれており、ホームでの看取りケアを希望される家族が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町でその人らしく生活が送れるようにケアを行なっている。又職員にも理念が把握できるように目に付きやすい場所にあげ意識付けを行なっている。	訪問される方にも目につきやすいように、玄関に理念が掲示されている。日頃から具体的な支援内容を決め、理念が実践しやすくなるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、施設での行事活動に参加して頂けるように地域の方々に呼びかけ、コミュニケーションが取れるように努めている。	地域の祭りや、域で行われるサロン、地域にある施設が開催する行事に参加するなどの交流されている。また、認知症サポーター講座を開催するなど、地域の一員として日頃から交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用申し込み者・地域の方や見学の方にアドバイスや相談を受けている。又一人一人のニーズに合った紹介が出来るように努めている。機会があれば認知症の講座等もして理解してもらえよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回開催し、利用状況・活動状況・サービス提供の報告・意見交換等行なっている。でた意見には全職員にて話し合い、よりよいサービスが提供出来るように努めている。	年6回開催され、ホームの活動状況の報告や、地域の意見交換をする場としても活用されている。また、消防訓練と一緒に開催するなど、関係者が参加しやすい工夫をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的にサービス提供の報告を行い、問題や課題の助言や指導を受けている。	川副ネットワークの一員として、行政との連携が取れている。包括支援センターとの相談やサービス提供の報告等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容を理解できるよう施設内での勉強会や研修に参加し、理解を深め身体拘束のないケアに取り組んでいる。又施錠は夜間以外行なっていない。	身体拘束は行われていない。月1回研修が行われ、職員一人ひとりが理解を深めるように取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止の重要性が理解出来るよう施設内での勉強会や研修会に参加し、虐待があってはならないとの意識を強め日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会や研修会に参加し、知識習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には納得ができるように十分な説明を心掛けている。又施設内も見学して頂いたうえで契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族面会時には常に意見や要望がないかを尋ねている。また意見や要望は全職員にて話し合い、反映させるように努めている。又改善策等の報告は運営推進会議で行なっている。	家族会や面会時に要望を聞くようにしており、出た意見は職員全員で話し合い、業務に反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中や毎月の勉強会・ミーティング等で意見交換を行い業務に反映できるように努めている。	日々の業務の中で、その都度、気づきを伝えたり、会議の時に業務の見直し等、意見交換を行い反映するように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会や研修会に参加してもらい知識向上を図り、職員に役職を付け給料水準を上げ職員の努力が形に出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員による勉強会を月に1回行い、外部からの講習会等も定期的に行ない知識の習得が出来るように努めている。又業務中も技術面も指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外での勉強会や研修会等に参加し意見交換を行なっている。又合同で行事等行いお互いの支援の仕方など見る事によって、知識向上にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の思いを受け止めることが出来るように信頼関係の構築に努めている。又会話や表情等もよく観察し安心して話せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込時に意見や要望、不安を和らげ安心して頂けるように努めている。又職員間で御家族の困っている事等把握し、職員全員で不安解消出来るよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様のそれぞれの状況を踏まえ、現段階で必要なサービス又は情報を提供する等支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として尊敬しながら、暮らしを共にするもの同士の関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様、利用者様の思いを大切にし職員・家族・利用者様が同じ思いで支援できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様や家族様にこれまでの生活歴や習慣を尋ね、利用者様の好まれる話やこれまでの生活を考慮し施設生活が送れるように努めている。	散歩時の馴染みの人との交流や、故郷を感じることが出来るように馴染みのお茶を提供するなど、馴染みの人や物の継続できるよう支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人を尊重し、普段の生活から利用者様同士が会話したり関わり合う場を設けお互いが支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談時には丁寧に対応為アドバイス等行ない、これまで同様の支援が行えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、家族様の意見を把握し、一人一人の意見を取り入れ尊重しその人らしい生活が送れるよう努めている。	生活歴を細目に聞きとったり、日頃の会話の中から思いや意向を把握できるように取り組まれている。また、把握が難しい入居者については、生活歴などからの汲み取りに努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所後も情報収集に努めできる限り生活環境が変わらないように努めている。又収集した情報は全職員で共有しケアの統一に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の言葉、仕草、動き等を観察し、記録したり申し送り等にて全職員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は利用者、家族、主治医、訪問看護師等の意見を取り入れ期間に応じて見直していく。又状況に変化が生じた場合はその都度話し合い、より良い計画作成に努めている。	担当職員が中心に日々の状態を把握し、本人や家族の意見を聞き、職員間で話し合い、現状に即した計画が作成されるように努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録は利用者様個別に行ない全職員が情報を共有し、より良い計画作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気を活かしながら、利用者様、家族様の意見要望を傾聴し柔軟な対応が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際は地域のボランティアに参加して頂いたり、地域の消防署や警察署に協力して頂き安心して生活が出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿ったそれぞれのかかりつけ医にみていただいている。24時間対応可能な体制をとってもらっている。	家族の希望に応じてかかりつけ医を選定でき、受診時は、家族付き添いにて行われるが、職員が書面等で情報提供を行っている。定期的に往診を受けたり、24時間相談対応ができるように連携が出来、適切な医療を受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護ステーションに日々の状態を報告し、適切な助言や指示を受けている。又疑問点などその都度相談している。24時間電話連絡出来る体制をとってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族様や主治医との情報交換を行ない、状況の把握をし早期退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に利用者様、家族様の医師を確認している。又重度化した際はその都度話し合いを行ない利用者様、家族様、主治医共に納得のいく方法でその時を迎える事が出来るよう努力している。	重度化した場合は、段階に応じて話し合い、主治医からの説明と家族の意向確認をし、支援の方針を決めている。医療機関と連携して支援できる体制づくりがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行ったり、消防署から指導に来てもらい緊急時に備えての訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団の協力のもと定期的に避難訓練を行っている。又町内の川副ネットワークとも連携を図り災害時の訓練や協力体制をとっている。	年2回、消防署立合いの下、消防訓練が行われ、消防団の協力や川副ネットワークの事業所間で協力体制をとり、災害訓練が実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、利用者様を人生の大先輩として人格を尊重し、プライバシーを損ねない声かけを行なうよう日々努めている。	幼稚な言葉かけをしない等、入居者一人ひとりの人格を尊重した支援ができるように取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気作りやケアに心掛け利用者様が意思表示、自己決定出来るように努めている。又意思表示がうまく出来ない肩にはわずかな変化にも気づけるよう観察を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のマニュアルを決めず利用者様の希望やペースを優先し、希望に沿った対応が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を家族様に用意してもらい、更衣時に衣類をえらんでもらったりと個人個人の身だしなみおしゃれが出来るよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話にて食べたい物を伺い献立に取り入れるようにしている。又準備や片付け等も一緒に行なう時間もつくるようにしている。	希望に応じて献立を決めたり、重度化に伴い、できるだけ口から食べてもらえるように、一人ひとりの食事形態の工夫や食事介助のペースを合わせてゆっくり行うように取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや食事習慣を取り入れながら栄養のバランスや体調等を考慮し、十分な栄養と水分が摂取できるよう支援している。又個々の状態に応じ食事携帯や調理法の工夫をして安心して美味しく食べられるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合った方法(歯ブラシ・クルリーナ・歯間ブラシ・液体歯磨き等)で残渣物が口腔内に残らないようにしている。義歯使用者には定期的に義歯洗浄剤を使い義歯も清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、訴え時や定期的に見ながら声掛け・誘導し気持ちよく排泄出来るように努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車いす専用のトイレは、陰部洗浄しやすい便器の形になっており、できるだけトイレに座り排泄できるように支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中にココア等の食物繊維の多い物を摂取してもらったり、運動を行ない排便を促す働きかけを行なっている。又排便チェック表を使い排便の有無を把握出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来る体制をとっている。拒否された場合は無理強いせずタイミングが合った時に入浴してもらっている。	毎日入浴できるように準備し、一人ひとりの希望に応じて時間や順番など対応されている。入浴を好まれない場合は、タイミングをみたり、声掛けの工夫を行い無理強いないよう取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や生活習慣にあった寝具を準備している。又睡眠・休息は利用者様のペースに合わせ気持ちよく休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携を取り一人一人の病気や薬について解らないことは、質問をし注意点など把握出来るように努めている。又しっかり服薬するよう確認し状態観察も行い状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や趣味を生活の中に取り入れ、施設内レクリエーション等を行ない持つてる力を活用し自信や喜びを感じてもらよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や体調に応じ散歩やドライブ・買い物等を行ない、季節ごとのイベントにも参加出来るよう努めている。又家族様にも協力して頂き外出等も行なっている。	希望に応じて、ドライブや散歩をしたり、家族と協力し外出できるように支援されている。重度化がすすみ、外出ができない場合でも、外を眺めたり、外気に触れるように支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持し自由に買い物が出来るよう支援する体制ではあるが、現在買い物を希望する方がおられないことや管理が困難な方が殆どである。その為家族様に管理をしてもらい、必要な物は購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。又電話の声が聞き取りにくかったり手紙の文字が書けない場合には、代行するなどして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の南側の窓からは田畑が広がっている風景を眺められ、季節ごとの作物や収穫風景がみるこ戸が出来る。自然の光が強い場合はブラインドで調整出来るように工夫し、室温・湿度にも配慮し調整をしている。	玄関には花が飾られ、3月はひな壇、5月には鯉のぼりが天上をおよぐ等、季節を感じれるように工夫されている。室温や湿度も充分配慮されており、居心地良く過ごせるように取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファをもうけ一人でゆっくりとすごしたり、利用者様同士でお話をしたりと思い思い過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様のなじみのあるタンスや鏡等を用意してもらおうよう家族様に声を掛け、今までの生活習慣との変化が少ないように配慮し、居心地が良く落ち着ける環境作りを行なっている。	使い慣れたものが持ち込まれ、写真が飾られたり、家族が訪問しつろげるようにベンチテーブルを設置していたり、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やソファ、ベッドなど一人一人の身体機能に応じ対応出来るよう工夫している。		